

言語環境づくりの取組について

「言語活動の充実」を支えるために、豊かな言語環境づくりをすすめ、言葉の力をすべての児童が付けていけるよう、取組を工夫した。

1 教室環境

(1) 教師自身の言語環境づくり

ア 適切な（正しく、丁寧で、温かい）言葉づかい

教師の言葉づかいは、児童に大きな影響力がある。授業だけでなく、日常生活の中でも声の大きさや抑揚、話すときの表情などにも配慮した。

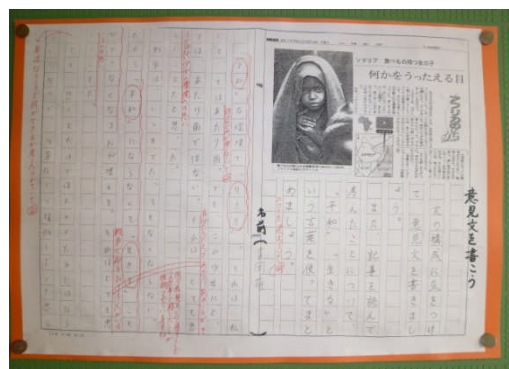
イ 正確に、丁寧に、工夫して板書する。

板書は児童が目にする文字の手本である。字形や筆順に気をつけることはもとより誤字・脱字にも注意して丁寧な板書をするよう心がけた。また、授業の流れがよくわかり、内容の要点が強調できるように、要点を絞り込んだ板書に留意した。

(2) 児童の言語環境づくり

ア 言語活動を反映した作品掲示

学習したことをまとめた新聞やカードなど授業の様子のでわかるものなどを掲示した。図画や工作などの作品には、作品の説明や教師のコメント、児童の感想等をつけて掲示するようにした。また、人権週間や給食週間等では、その時に取り組んだ標語やメッセージカードなども掲示した。



<新聞を活用した意見文 6年生>

イ 暗唱活動

児童が名文・名句などを暗唱することによって、日本語のもつリズムを体験したり、言葉に対する関心が高まったりすることをめざしている。

月ごとに児童に暗唱文を配付し、家庭学習で練習したり、朝の会で全員が声を合わせて朗読したりするようにしている。その成果を、児童朝礼で学年ごとに全校児童の

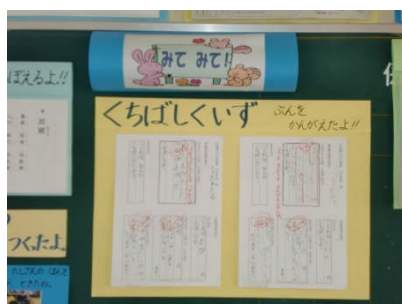


<2年生の「聞くとき・話すとき」>

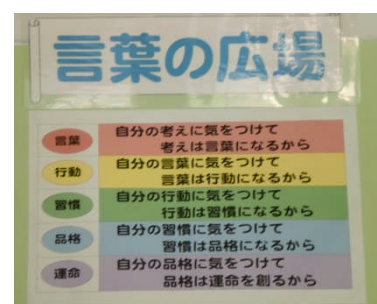
前で発表することによって、更なる意欲付けを図っている。暗唱の内容については、系統性を考えて各学年で作成している。

ウ 聞く力、話す力の培養

発表や話し合い活動を活性化させるためには、聞き取る力、発言する力をつけることが大切である。そのため



<1年生「みてみて」>



<5年生「言葉の広場」>

に、発達段階に即した内容の表（「聞くとき」「話すとき」「基本話型」）を掲示して活用している。

エ 言語活動に関するコーナー

掲示コーナーを利用して、学習に使ったもの、児童の作文、児童に適した詩などを掲示している。コーナーの名前は、学年で創意工夫して付けている。

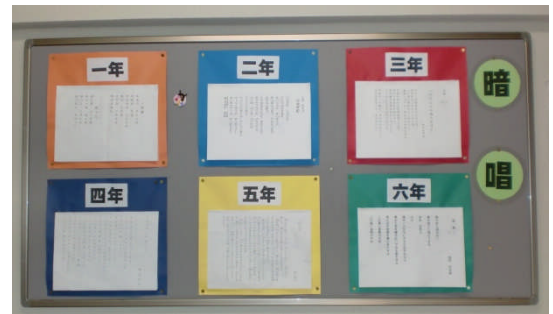
2 校内環境

(1) あいさつの習慣化

あいさつは、豊かな言語環境のための基盤となるものである。人間関係づくりとして心と心をつなぐものでもある。定期的に生活目標として全校で取り組んでいる。毎朝、校門では生活委員会の児童があいさつ運動にも取り組んでいる。

(2) 掲示物の整備

階段や廊下壁面の掲示版や、校門付近の掲示版などを利用して、児童が常に目にする情報資料を掲示している。正しい言葉づかい、見やすい表示、分かりやすい内容といった点に配慮した掲示になるように心がけている。



<暗唱内容の紹介掲示板>

(3) 学年別暗唱内容等の掲示

折々に取り組んでいる1年生から6年生までの暗唱内容や学習作品などを掲示して、言葉に関する児童の関心・意欲を高めている。

(4) 各委員会活動の掲示

広報委員会の児童は、行事予定やお知らせ、豆知識などを掲示した。季節にあった飾り付けで、児童は読む楽しみを経験している。



<広報委員会>

保健委員会の児童は、保健関係で興味深い内容を、図書委員会からはおすすめの図書の紹介などの掲示を工夫した。



<保健委員会>



<図書委員会>

3 適切な校内放送

校内放送は、全児童を対象にしたものであるし、情報伝達の重要な手段である。児童が放送する場合には、聞く相手の立場を意識して、話す内容や言葉遣いに注意しながら原稿を読む練習をさせるようにしている。

《学習指導要領解説に示された「言語環境の整備」の視点より》

- ① 教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと
- ② 校内の掲示板やポスター、児童に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用すること
- ③ 校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話すこと
- ④ 適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること
- ⑤ 教師と児童、児童相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること
- ⑥ 児童が集団の中で安心して話ができるような教師と児童、児童相互の好ましい人間関係を築くこと